

令和元年度「全国学力・学習状況調査」における 大原野小学校の結果の分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童生徒質問紙調査」を実施いたしました。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について考察しております。保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をおもちいただき、教育活動にご協力いただくため、分析結果をお知らせします。本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上を目指しています。学校の現状や取組の参考にしていただきたいと思います。

尚、平成31年度（令和元年度）より、教科（国語・算数）に関する調査は、知識・活用を一体的に問う問題形式となつたため、従来のA B区分がなくなりました。解答方法については選択式、短答式、記述式の3方法になっています。

1 調査内容

（1）教科に関する調査

国語・算数に関する調査

- ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
- ・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能
- ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
- ・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力

（2）児童生徒質問紙調査

児童生徒質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査

2 教科学習状況調査結果

（1）総合結果

国語については全国平均を上回りました。一方算数は全国平均を下回りました。国語、算数どちらの教科も問題数14問に対し、どの問題にも自分なりに努力して解こうとする態度が見られました。

(2) 国語科について

①課題のある問題

- ・漢字を文の中で正しく使う（限らず）
- ・ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる
- ・情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の工夫として適切なものを選択する
- ・話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えを30字以上60字以内にまとめる

②全国平均を上回った問題

- ・漢字を文の中で正しく使う（対象・関心）
- ・目的に応じて質問を工夫する（インタビューの場面における質問の工夫として適切なものを選択する）
- ・報告する文章で図表やグラフなどを用いた目的を捉える
- ・文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く

③考察

漢字を文章の中で正しく使う問題では、熟語になっているものについては全国平均を上回りましたが、送り仮名がある漢字については課題が見られます。漢字は、送り仮名も含めて正しく覚え、その漢字を使った例文などを練習し、普段から使うようにすることや、辞書の活用を習慣化することが必要であると考えます。また、ことわざについても課題が見られました。教訓など古くから人々に言い伝えられてきた言葉に触れ意味を理解し、普段から会話や作文で使うことも大事だと考えます。

内容を読みとる問題では、書いてあることはわかつても、その内容を相手にわかりやすく伝えるための適切な方法が選べないなど、活用に関する問題に課題が見られました。また、条件を満たし、指定された文字数で大事なことを落とさずまとめる問題に課題が見られました。学校では振り返りとして、学習の後に書きまとめる活動を取り入れています。今後は、文の中からキーワードを探したり、大事な言葉を使って書きまとめたりする活動を意識して取り入れていきたいと考えます。

(3) 算数科について

①課題のある問題

- ・だいたい何分後に乗り物券を買う順番が来るのかを知るために、調べる必要のある事柄を選ぶことができる
- ・ $6 + 0.5 \times 2$ の計算ができる
- ・ $600 \div 15$ を計算しやすい式にして計算する
- ・減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめると、どのようになるのかを書く
- ・残り7ポール分進むのにかかる時間の求め方と答えを記述し、24分以内にレジに着くことができるかどうかを判断する

②全国平均を上回った問題

- ・二つの合同な台形をずらしたり、回したり、裏返したりして同じ長さの辺どうしを合わせて作ることができる形を選ぶ
- ・何秒後にゴンドラに乗ることができるかを求める式を書く
- ・二つの棒グラフから一人当たりの水の使用量についてわかるとこを選び、選んだわけを書く
- ・長方形を直線で切ってできた図形の中から台形を選ぶ

③考察

図形に関する問題2問では、どちらも全国平均を上回りました。これは普段から、イメージしやすいようにコンピュータ等のICT機器を活用したり、操作活動を取り入れたりして学習が進められるよう工夫した成果だと考えます。しかし、数学的な考え方についての問題に課題が見られました。解答を導いた考え方について理由を書くなどの問題が全国平均を下回りました。学校では、低学年から文章問題を解く際、立式しその理由を説明することを大切にしています。また、今回の結果から整数、小数、分数などの四則計算や、四つの方法が1つの式に混在した計算を正確にできる力もつけなければならないことも感じました。その他にも、どのようにして答えを導き出したかを、ノートに書いたり、相手に説明したりする活動をより多く授業に取り入れることが必要であると考えます。そして、児童一人一人が授業で習得したことを定着させていきたいと考えます。

3 児童生徒質問紙調査結果

① 肯定する回答が少なかつたり、全国平均よりも低かつたりする主な質問事項

- ・自分には、よいところがあると思いますか
- ・学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）
- ・学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）

② 考察

- ・「自分には、よいところがあると思いますか」について「当てはまる」と回答している児童は、全体の16.7%でした。「どちらかといえば当てはまる」を含めると、73.4%の児童がプラス評価しているものの、約30%の児童がマイナス評価をしていることが気になります。学校では常に、一人一人が活躍する場を作ったり、終わりの会で友達のよいところを見つけたりする機会を作っています。このような活動を通し、児童が自分には活躍する場があり、周りからも認められていると実感できることを大切にしています。今後も周りの大人や友達から褒められたり、クラスや学習の中で認められ活躍できる機会を意図的に作ったりして、児童が自分の良さを見つけ、自覚できるようにしていきたいと考えます。

その他、「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に対して、「当てはまる」と回答した児童が66.7%で、「どちらかといえばあてはまる」を含めると86.7%の児童がプラス評価をしています。努力し、自分の立てた目標を達成することが自信につながると機会があるごとに児童に伝えています。「自信をもつ」ことが、様々な場面において、適切な行動を自分で考え、決定し、行動できる能力につながると言えています。児童が自信を持って「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標がある」と言えるように、本校の教育目標である「夢や希望を持って努力し自信を持って学び続ける児童」の育成に取り組んでいきたいと思います。

- ・家庭学習については、「家で自分で計画を立てて勉強していますか」に対して87%の児童が「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答しています。しかし、実際行っている学校の授業時間以外の学習時間が「1時間以上2時間より少ない」が約57%、「30分以上1時間より少ない」が約27%、「30分より少ないまたは全くしない」が7%と、一般的な6年生の家庭学習の目安とされている時間より少ない回答が多くありました。また、読書時間についても「読書が好き」と80%が回答していますが、「読書時間が30分より少ない」と回答している児童が約74%いました。児童の「家庭学習や読書は必要」という意識は高いので、今後家庭学習について、力をつけるために必要な学習の仕方や目安の時間を具体的にアドバイスしていきたいと思います。また、自主勉強ノートなどを活用し、興味関心があることについて計画的に取り組むことができるよう引き続き働きかけていきたいと思います。
- ・起床・就寝時刻については「毎日同じくらいの時刻に起きて、寝ている」と85%以上「している」「どちらかといえばしている」と回答しています。また、「朝食を毎日食べている」については100%「している」「どちらかといえばしている」と回答しています。ご家庭のご協力もあり規則正しい生活習慣が身についていることが分かります。
- ・本校は特別の教科道徳の学習を中心に「豊かな心」の育成に取り組んでいます。その成果もあり、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、お互いの意見の良さを生かして解決方法を決めていると思いますか」「学校に行くのは楽しいと思いますか」などの質問に「当てはまる」「どちらかといえばあてはまる」と肯定的な回答が多く、全国平均を上回っていました。今後も学校は児童一人一人の思いに目を向け、児童を理解し温かく支えることを目指したいと思います。そして、ご家庭や地域と協力しながら自らを律しつつ思いやりの心を持った子の育成に取り組んでいきます。